

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 乙 第	号
------	-------	---

氏 名 光行 多佳子

論 文 題 目

がん診断後の心理的ケアにおけるコミュニケーション・スキルの
の評価尺度開発とその関連要因に関する研究

論文審査担当者

主 査 名古屋大学大学院医学系研究科教授 玉腰 浩司

委 員 名古屋大学大学院医学系研究科講師 石田 京子

委 員 名古屋大学大学院医学系研究科教授 佐藤 一樹

論文審査の結果の要旨

がん看護面談は、がん診断を受け心理的苦痛の強い状態にある患者を心理的に支え、がんの治療や療養生活に関する情報を提供する、継続的な看護支援である。外来での看護相談の充実ががん診療連携拠点病院の指定要件であり、がん看護面談を評価するがん患者指導管理料（ロ）の算定数の量的な拡大に伴い、質的な充実が求められる。がん看護面談での心理的ケアは、看護師と患者の治療的な関係の上に成り立つコミュニケーション・スキルを意図的に用いることが重要である。しかし、がん患者に看護師が行うカウセンシングを含むコミュニケーションで用いられるスキルの活用の実態やその促進・阻害要因は明らかでない。そこで、以下の2点を本研究の目的とした。

- 1) がん診断後の心理的ケアの看護師のコミュニケーション・スキル評価尺度の開発
- 2) がん診断後の心理的ケアの看護師のコミュニケーション・スキルの関連要因探索

本研究は、予備調査（評価尺度案の作成）と本調査（信頼性・妥当性の検討、関連要因の探索）から成る。予備調査では、文献検討、専門家19名のフォーカスグループインタビュー、外来がん看護面談担当看護師89名のパイロット調査を行い、コミュニケーション・スキル評価尺度案32項目を抽出した。本調査では、がん診療連携拠点病院649施設に調査依頼し、216施設301名の有効回答を得た。




本研究の知見と意義は要約すると以下の通りである。

- 1) がん診断後の心理的ケアで看護師の用いるコミュニケーション・スキル評価尺度を開発し、十分な信頼性と妥当性を確認した。
- 2) がん診断後の心理的ケアで看護師の用いるコミュニケーション・スキルは、探索、傾聴、受容、沈黙、保証、共感に大別された。沈黙と保証が独立したスキルとして抽出されたことがコミュニケーション・スキルとして新規性が認められた。
- 3) コミュニケーション・スキルの活用はがん看護面談体制と関連し、面談のための時間や場所の確保が質の高いがん看護面談に資することが示唆された。
- 4) コミュニケーション・スキルの活用は看護師の経験年数、専門資格、研修受講経験と関連し、がん看護の幅広い知識と実践能力、十分な専門職としての臨床経験が質の高いがん看護面談に資することが示唆された。
- 5) がん看護面談の話題とコミュニケーション・スキルの関連から、心理支援の内容によってより用いられるスキルの要素の示唆が得られ、看護師教育に活用できる知見を得た。

本研究は、がん看護面談で用いるがん診断後の心理的ケアでのコミュニケーション・スキルに関する重要な知見を提供した。なお、本研究の主たる内容は、*Journal of International Nursing Research* 誌に掲載された。

以上の理由により、本研究は博士（看護学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報 告 番 号	※第	号	氏 名	光行 多佳子
試験担当者	主査 名古屋大学教授 玉腰 浩司 	委員 名古屋大学講師 石田 京子 	委員 名古屋大学教授 佐藤 一樹 	

(試験の結果の要旨)

主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。

1. がん看護面談のコミュニケーション・スキルとして特異的な要素
2. 多変量解析の解析モデルの考え方
3. コミュニケーション・スキルの適用範囲
4. 研究知見からの看護への示唆
5. 対象者選定や調査票の想起期間の研究への影響
6. コミュニケーション・スキルの臨床応用のための今後の課題

以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、看護学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。

学 力 審 査 の 結 果 の 要 旨 お よ び 担 当 者

報 告 番 号	※ 乙 第	号	氏 名	光行 多佳子
学力審査担当者	主査 名古屋大学教授 玉腰 浩司 	委員 名古屋大学教授 石田 京子 	委員 名古屋大学教授 佐藤 一樹 	
(学力審査の結果の要旨)				
<p>専攻の学術について、本大学院博士課程（看護学）修了者と同等以上の学力を有するか否かについて、学力審査を行った結果、同等以上の学力と見識を有するものであると認定する。</p>				